

2026年度 日本・韓国青年親善交流事業 渉外の募集について

事業の概要について

1 事業の趣旨及び目的

日本・韓国青年親善交流事業は、1984年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨と、1985年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、1987年から日本と韓国両国政府が共同して実施しています。

本事業は、両国政府が設定したテーマ（2026年度は「人々のつながりとデジタル社会」を予定。）に関するディスカッションや施設訪問、文化体験等を通じて、次世代グローバルリーダーとしての能力の向上を図るとともに、両国青年の相互理解及び友好の促進を図ることを目的としています。

2 日本青年団について

日本青年団の構成は、団長（1名）、副団長（2名）、渉外（2名）、日本参加青年（20名、18～30歳）となります。

※ 韓国青年団の構成は、団長（1名）、副団長（2名）、渉外（2名）、韓国参加青年（20名）を想定しています。

3 事業の構成及び内容

本事業は、交流プログラム及びその前後に行う研修・報告会から構成されます。このうち、日本参加団に関する内容は以下のとおりです。

(1) 交流プログラム【使用言語：日本語（日韓通訳あり）】

① 日韓合同オンラインプログラム

- オリエンテーション

両国の参加青年の自己紹介やディスカッションテーマに基づく講義、グループごとにディスカッションに向けた認識のすり合わせ等を行う。

- 成果発表

両国の参加青年が本事業を振り返り、ディスカッションプログラムや事業全体を通して得た成果を発表し合うことにより、お互いに学びを共有する機会とする。

② 韓国プログラム

ソウル及び地方都市において、現地青年とのディスカッション、文化交流、施設訪問、ホームステイ、政府機関への表敬訪問等の活動を行う。

- ③ 東京プログラム（日韓青年親善交流のつどい）
日本参加青年及び韓国参加青年が一堂に会し、ディスカッション、文化交流、成果発表等を行う。

(2) 研修・報告会（日本参加青年のみ）【使用言語：日本語】

- ① 事前研修
本事業の趣旨、内容及び韓国について理解を深め、日本代表青年としての心構えや韓国における活動の基本を身に付けるとともに、出発前研修までの自主研修期間における目標を明確にする。
- ② 出発前研修
韓国における諸活動の最終準備と確認等を行う。
- ③ 事後研修
事業に参加した成果を取りまとめるとともに、その成果を踏まえ、事業終了後の活動について計画する。
- ④ オンライン事業報告会
事業に参加して得た知識や経験等について、国際交流に関心のある一般の青少年等に向けて報告を行う。

4 事業日程 ※ 諸般の事情により、日程が変更又は中止となることがあります。

- (1) 団長・副団長・渉外会議
2026年6月下旬及び8月に各1回（計2回。いずれもオンライン）
※ 1回当たり2時間を基本とします。
※ 具体的な日程は、団長、副団長及び渉外の決定後に決定します。
※ 事前研修、出発前研修及び事後研修中にも同会議を対面にて開催します。
- (2) 事前研修
2026年7月16日（木）～7月18日（土）：3日間（都内）
- (3) 日韓合同オンラインプログラム①（オリエンテーション）
2026年8月20日（木）：1日間（オンライン、5時間程度を想定）
- (4) 出発前研修
2026年9月5日（土）～9月6日（日）：2日間（都内）
- (5) 交流プログラム（対面で実施するもの）
2026年9月7日（月）～9月16日（水）：10日間
・韓国プログラム 9月7日（月）～9月14日（月）
・東京プログラム 9月14日（月）～9月16日（水）
- (6) 事後研修
2026年9月17日（木）：1日間（都内）
- (7) 日韓合同オンラインプログラム②（成果発表）
2026年11月6日（金）：1日間（オンライン、3時間程度を想定）
- (8) オンライン事業報告会
2026年12月12日（土）：1日間（オンライン）

5 日本参加青年に期待すること

内閣府青年国際交流事業の参加青年には、日本の代表として、主体的に事業に参加するとともに、事業参加後も、各々の属する職域や地域に事業参加によって得たものを還元する（「事後活動」）とともに、継続的に自己研鑽に励み、各分野において国際社会や地域社会をけん引するグローバルリーダーに成長することを期待しています。

渉外の職務について

6 委嘱期間

令和8年6月～12月（予定）

※ 渉外は、内閣府からの委嘱に基づき協力いただくものであり、非常勤の国家公務員として任命されるものではありません。

7 職務内容

渉外には、日本青年団の通訳並びに団長及び副団長の補佐としての業務を担っていただきます。具体的には、主に以下の役割を担っていただきます。

(1) 日本青年団の通訳

- 出発の準備において、参加青年の各担当と調整しながら、通訳として必要な業務内容を整理する。
- 交流プログラム中、表敬訪問やレセプション、施設訪問等の公式行事における団長等のスピーチや記念品交換における通訳を行う。
- 韓国プログラム中、韓国国内において実施するディスカッション、施設訪問時の説明の通訳を行う。
- 交流プログラム中、団長の指導の下、内閣府への提出資料等について、語学面から整理・翻訳する。
- 日韓両国における表敬訪問や施設訪問等が円滑に進行するよう、韓国の文化や礼節等の情報を日本参加青年に提供する。

(2) 団長及び副団長の補佐

委嘱期間中、団長及び副団長を主に語学面から補佐する。副団長の業務は、「副団長の募集について」の「7 職務内容」のとおり。

8 待遇

(1) 内閣府の規定に基づき、以下の謝金が支給されます。

1日当たり 10,200円（税込）、計21日間

（団長・副団長・渉外会議2日間、研修6日間、交流プログラム12日間、報告会1日間）

※ 謝金は、上記の日程のうち実際に職務に従事した日数に応じて支給されます。

- (2) 以下の経費については、内閣府が負担します。
- ① 研修及び交流プログラム（韓国プログラムを除く。）期間中の交通費、宿泊費及び食費（研修及び交流プログラムへの参加に必要な自宅と研修場所間の交通費を含む。）
 - ※ 日本と交流国との移動には、航空機（エコノミークラス）を利用します。
 - ※ ただし、自宅が外国にある場合、研修及び交流プログラムへの参加に必要な自宅と研修場所間の交通費は、国内交通費（内閣府が指定する国際空港と研修場所間の移動に要する交通費）のみ支給します。
 - ② 海外旅行保険（出発前研修、東京プログラム、事後研修期間を含む）加入費
 - ③ 交流プログラム（韓国プログラムを除く。）中に訪問する施設の入場料等
 - ※ 韓国プログラム中の交通費、宿泊費及び食費等は韓国政府が負担します。
- (3) 以下の経費については、渉外に自己負担いただきます。
- ① 健康診断及び予防接種に係る費用
 - ② 旅券発行手数料
 - ③ (2)②の海外旅行保険で賄えない治療費及び付随する費用
 - ※ 特に、事前研修期間中は保険期間外となります。
 - ④ 個人的な理由で事業参加を取りやめる場合の帰国等に係る費用
 - ※ ただし、渉外の親族（二親等以内の親族に限る。）が死亡又は危篤状態になった場合、渉外が本事業への参加を継続できないほどの病気を患った又は怪我を負った場合、その他内閣府がやむを得ない帰国と認める場合、内閣府がその全部又は一部を負担する場合があります。
 - ⑤ 個人が用意するお土産
 - ⑥ 名刺、ポロシャツ等の任意で作成するもの
 - ⑦ 文化交流等で使用するもの（衣装等）
 - ⑧ 委嘱期間中の通信環境の整備に関する費用及び通信費
 - ※ 韓国プログラム期間中については、業務に必要なWi-Fiを貸与することを予定しています。
 - ⑨ 宿泊ホテル等における付随的費用
 - ⑩ その他、個人用に必要な経費

9 渉外に求められる資質・能力

職務内容を踏まえ、以下の資質・能力を備えた方の参加を期待しています。

- (1) 参加青年の成長のために彼らに寄り添い、青年の自発性を尊重しつつ、必要に応じて適切にアドバイス・指導する力
- (2) 団長・副団長と協力し、団運営のために自身にできることを模索し実行する力
- (3) 環境及び状況の変化に臨機応変に対応し、常に明るく前向きに行動する力
- (4) 自身の語学力や韓国についての知識を積極的に団に還元する姿勢

渉外の募集・選考について

10 募集人数

2名

11 応募要件

- (1) 日本の国籍を有すること。
- (2) 原則として、25歳以上49歳以下の者であること。
- (3) 各種研修や報告会を含む、事業の全日程に参加できること。
- (4) 心身ともに健康で協調性に富み、事業の計画に従って日本参加青年を統率することができること。青年等の育成・指導及びチームビルディングに知見・経験を持つ者であることが望ましい。
- (5) 他者の人格と個性を尊重し、ハラスメント等によりその尊厳を傷つけることがないよう自らを律することができることとともに、日本参加青年について必要な指導やケアを行うことができること。多様性を受け入れる精神を持ち、どのような行為が他者の尊厳を傷つけ得るかを考える能力を有すること。
- (6) 内閣府が実施する青年国際交流事業の日本参加青年としての参加経験があることが望ましい。
- (7) テーマに関心があること。
- (8) 日本の社会、文化等について相当程度の知識を有すること。
- (9) 韓国に理解と関心があること。
- (10) **韓国語能力試験 (TOPIK) 6級相当**の韓国語能力を有すること。
※ 任意で語学資格を証明する証明書を提出することができます。
- (11) 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症対策に関し、内閣府が求める必要な対応（予防接種、マスク着用、手指消毒、検査、隔離措置等）について協力できること。

12 選考の概要

渉外の選考は、以下のとおり行います。

- (1) 一次選考（書類審査）
 - 参加申込書を基に審査を行います。
- (2) 二次選考
 - 個人面接（オンライン）を実施します。
 - 日程及び選考の詳細については、一次選考の結果と合わせて連絡します。
- (3) 渉外の決定
 - 渉外の決定通知（二次選考の結果の通知）は、2026年6月初旬までに、メールにて行います。
 - 参加青年の決定通知の1週間前（2026年5月下旬）を目途に、決定予定者に内定連絡を行う予定です。
 - ※ 内定後又は決定後に提出いただく書類については、「14 内定後に提出いただく書類」をご覧ください。
 - ※ 提出いただいた書類の内容を踏まえ、最終的な事業参加の可否を判断します。その

ため、場合によっては、決定通知の時期が遅れることがあります。

13 応募方法

内閣府 HP（以下 URL）にある応募方法に従ってご応募ください。

<https://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/bosyu-2026.html>

参加申込書提出の締切：2026年5月8日（金）12時（正午）

- ※ 参加申込書提出に先立つ**応募フォームへの入力・送信は5月6日（水）12時（正午）まで**です。上記期限までに応募フォームへの入力・送信がないと参加申込書の提出は受け付けられませんので、ご注意ください。
- ※ 参加申込書はメールによる申請のみ受け付けます。郵送による申請は受け付けませんのでご注意ください。
- ※ 応募者多数の場合は、受付期間中であっても募集を早期に締め切ることがあります。
- ※ 締切後の応募は無効となりますので、時間に余裕を持ってご応募ください。

その他

14 内定後に提出いただく書類

内定後又は決定後、以下の書類を提出いただく予定ですので、予めご準備をお願いします。

① 健康診断書（内定後）

- ※ 最新の受診結果（2025年6月以降に受診したもの）をご提出ください。
- ※ 医療機関で受診するもののほか、所属する大学や勤務先で受診する定期健康診断結果でも差支えありません。
- ※ 必須項目は以下とします。
問診、身体測定（身長及び体重）、視力、血圧、尿検査（蛋白及び糖）
- ※ 必要に応じて、追加の書類の提出を個別に依頼する場合があります。

② 既往歴、現在の通院・服薬状況等（内定後）

③ ②に関する医師の診断書（内定後）

④ パスポートの写し（決定後）

- ※ 外国への渡航に際し、保険等の手続きに必要となります。

15 個人情報の取扱い

(1) 本事業への応募に際して収集した個人情報（応募フォーム及び参加申込書に記載された情報）は、以下の利用目的の範囲内で適切に取り扱います。

① 渉外の選考

(2) また、渉外として決定された方の個人情報（応募フォーム及び参加申込書に記載された情報並びに14で提出された書類に記載された情報）は、上記に加え、以下の目的の範囲内で適切に取り扱います。

① 2026年度の本事業の実施

各国政府や日本国内の他の政府機関（外務省等）、大使館、事業受託業者、

プログラムの受入団体（都道府県等の地方公共団体、視察先団体、同窓会組織等）、報道機関等への情報提供を想定しています。

② 2027 年度以降の内閣府青年国際交流事業の実施

各種プログラムに過年度事業の渉外として協力を依頼する場合等における利用（事業受託業者への情報提供を含む。）を想定しています。

③ 事業の広報及び記録

内閣府や事業の運営者、プログラムの受入団体等が、研修や交流プログラムの様子を撮影・録画・録音し、内閣府 HP や内閣府公式 SNS、インターネット上の広告等に使用することがあります。

- (3) 本事業に応募した方は、上記(1)の個人情報の取扱いに同意したものとみなします。また、渉外として決定された方は、上記(2)の個人情報の取扱いについて、予め同意したものとみなします。

16 照会先

内閣府 青年国際交流担当室 国際企画担当

〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1 中央合同庁舎第 8 号館

電話 03-5253-2111（大代表）

（平日／9：30～18：15）